

発表者 濱田瑞美
所属研究室 共通科目研究室

■授業実施ツール・方法

授業「東洋美術史」(火曜3限、履修者98名、専門教養科目:選択必修)

Google Classroom で複数の授業資料(授業動画 YouTube 限定公開、動画と同様のパワーポイント画面の PDF、動画音声)をオンデマンド配信した。各回に小課題(小テスト、スケッチ、小レポート、感想・コメント等)を設定し、課題の提出・受領、個別フィードバックは Google Classroom、Google Forms で実施した。課題の提出をもって出席をカウントするとともに、各課題の評価点を積み上げ、本授業の最終的な成績評価を行った。

■授業実施に際し、工夫した点や今後の授業運営で活用できそうな点

〈工夫した点〉

1、複数種類の授業資料の配信

学生の通信環境を配慮し、オンデマンド配信する授業資料を「授業の録画映像、YouTube 限定公開」「スライド資料 PDF」「音声(録画時の音声)」等、複数種類提示し、履修学生はそれらから選択して受講した。録画映像だけでなくスライド資料および音声データを準備することで、通信環境の制限によって録画映像を視聴できなくとも、スライド資料と音声を組み合わせることで映像と近い状況での受講を可能とした。

学生からは「自身の通信環境に合わせて資料を選択できた」、「複数の授業資料を組み合わせることで学習できた」、「オンデマンド授業のため、自分のペースで受講できた。何度も資料を見なおして復習できた」、「映像や音声データで先生の解説が聞けるため理解しやすく、普段の授業と近い感覚で受講できた」等の反応があった。

2、スライド資料の表示の工夫

スライド資料 PDF では、解説や要点が分かりやすいよう、吹き出し形などで強調した。

3、録画映像の視聴期限の設定

課題提出の締切厳守を促すため、録画映像は課題の提出締切日時に配信を停止する工夫を行った。

学生からは、「映像等、課題の締切時間になると閲覧できなくなるため、しっかりとやった人への配慮が行き届いている」との評価コメントがあった。

4、課題の内容と量の調整

毎回提出する課題は負担感のない内容と量を考慮して設定した。

学生からは、「小テストで勉強し、出席しやすい」、「課題の量が多くない」、「レポート作成が苦にならない」等の反応があった。

5、課題の種類の変更

毎回提出する課題はそれぞれの回で「小テスト（4、5問程度の選択問題）」「作品スケッチ（部分スケッチ可）」「小レポート（授業内容に関する質問への解答）」「感想・コメント」など種類を変えることで、学生が課題に取り組むモチベーションが保たれるよう工夫した。

学生からは、「課題がテスト形式であったりスケッチだったりするのが良い」と課題のバリエーションに対する評価コメントがあった。

6、全員への個別フィードバック

Google Classroom の限定公開コメントを通じて、毎回、課題に対する個別フィードバックを全員に行った。フィードバックはなるべく早く、授業日の内に行った。

学生からは、「課題を提出したらすぐに提出できていると連絡が来る」、「回答や課題提出、感想を述べると、毎回しっかり返信があり、『見てくれているんだ』と感じ、安心する」等の反応があった。

〈今後の授業運営で活用できそうな点〉

1、授業内における Google Classroom、Google Forms の活用

今後対面(登校)授業の形態に戻った際、授業時間中にアンケートや簡単な小テストを行い、集計結果をその場で共有する方法を取り入れてみたい。但し、教室の Wi-Fi 敷設や学生のスマートフォン等の保持状況による。

2、事前学習・事後学習における Google Classroom、Google Forms の活用

事前学習・事後学習に、Google Classroom を利用し、関連資料の配信や、小テスト・小レポート等の課題を課すことは、学生自身がそれらを確認・管理できる点においても有用だと考える。

■問題点や改善点、成功事例

オンデマンド配信による授業は、学生の受講状況が把握し難いことが問題点として挙げられるが、受講状況を確認できるよう課題の指示を工夫したところ、評価に差が生じた。

なお、本授業のスライドには、著作権を有する美術作品資料が多々含まれている。本授業開始時に授業資料の複製・転用の禁止については周知したが、遠隔授業が今後も継続されるなら、全学的に情報リテラシー教育の充実が求められよう。

■学生からの要望・意見に対する対応事例

学生から、通信環境を理由に、課題提出の締切時間延長の要望があり、対応した。また、課題がスケッチの際は、時間をかけて取り組みたいという学生の要望を受け、提出締切時間を延長した。